

ゆりのき台小コミュニティ・スクールだより



2021年1月号

発行者 ゆりのき台小学校 学校地域運営協議会

「コミュニティ・スクールは 学校・子どもの応援団」



ゆりのき台小学校長 福本 八重歌

新年あけましておめでとうございます。

コロナ禍にあって、残念ながら晴れやかな年明けとはなりませんでしたが、大切な命を救うために日々奮闘されている方々に感謝しつつ、私自身も with コロナの新しい生活様式の中で、今年もできるかぎりのことをやっていこうと決意を新たにしました。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大に努めながらの昨年でしたが、特に4月以降、学校生活においても、毎日の検温や健康チェック、マスク、手洗い、消毒、人との距離の確保などに加え、「3密」に気を付けて学習や行事の進め方を工夫するなど、大きな変化を余儀なくされました。

そのような中で、これまで地域の方と一緒に行わせていただいていた、防災オープンスクールやユリッキまつりなどの行事も諦めざるを得なくなりました。

一方で、地域の方から「何かお手伝いできることはありませんか」という温かい声をかけていただいて、例年以上に応援していただいた活動もありました。1年生の給食ボランティアでは例年よりも多くの方に長い期間を、5・6年生の家庭科のミシンボランティアでは、感染防止対策としてクラスを半数に分けて行ったことにより、例年の倍の時間お世話になりました。そして、学校司書が不在になり、後人が見つからず困っている現在、図書ボランティアの方に図書室の貸出業務等を毎日助けていただいています。その他にも、下校時の見守り、音楽会練習、行事の受付や花壇や畑の整備など、コロナ禍でご自身のことも心配な中、学校そして子どもたちのために、力を貸して応援してくださる方がいてくださることを本当に嬉しく、心強く思っています。

「コミュニティ・スクールは、学校の応援団である」という言葉を聞いたことがあります。では、応援していただける理由は何でしょう。それは、応援する側にも応援される側にもよいことがもたらされるからだと考えます。新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、連携・協働しながら未来の創り手である子どもを育てていくことが重要であると示されています。

2学期の後半、地域でボランティアをされている方から活動への思いや願いを聞かせていただいた5年生は、次に自分たちができることはないかと考え、複数のクラスが地域の公園で落ち葉やごみを拾う活動に取り組みました。「できることを、できるときに」というボランティアの方の言葉が子どもたちの心を動かし、活動につながったのです。

来年度、ゆりのき台小学校のコミュニティ・スクールは10年目を迎えます。より多くの方に応援していただける学校であり続けられるように、さらに前に進むための1年になればと思っております。皆さま、本年もどうぞよろしく願いいたします。

